

令和2年10月16日

帯広市長 米沢 則寿 様

帯広市交通安全市民会議

会長 平舘 善明



第11次帯広市交通安全計画について（答申）

令和2年10月1日付けで「第11次帯広市交通安全計画の策定」に係る諮問を受け、本会議では、近年の交通安全に係る社会動向、現状や課題などを確認しながら審議を行いました。

帯広市や各関係機関等の交通安全に係る取り組みの積み重ねなどにより、帯広市の交通事故は減少傾向にありますが、痛ましい交通事故を1件でも多く減らし、最終的にはゼロを目指していくという視点を持ち、今後の取組の方向性について意見を取りまとめましたので答申いたします。

帯広市長におかれましては、この答申を第11次帯広市交通安全計画に生かされるとともに、交通安全都市・帯広として、交通事故のない安全な社会の実現に向けて取組まれることを強く期待します。

1 交通安全に係る現状と課題について

(1) 近年の交通を取り巻く環境の変化と市民の交通安全意識について

近年では、運転中の映像を録画できるドライブレコーダーなどが普及してきているほか、道路交通法の改正により「あおり運転」や「ながら運転」が厳罰化されたことなどから、市民の交通安全意識は、少しずつ向上しているように感じられます。

しかしながら、ドライバーの「前方不注意」や「左右不確認」などの「安全運転義務違反」による交通事故が最も多くなっているほか、周囲の車両や歩行者等に対し配慮に欠けるドライバーや、自転車利用者が歩道を並走し、歩行者の通行を妨げているなど、交通ルールや交通マナーを守らない場面が多く見受けられる状況が続いています。

また、登下校中の小学生をはじめとする子どもたちの安全を守ることや、「歩行者が優先である」などといった交通ルール及び交通マナーを遵守するように、市民に対する教育や周知徹底が重要であると考えます。

(2) 年齢層別の交通事故の要因や傾向について

交通事故における加害者及び被害者は、いずれも高齢者が最も多くなっており、高齢化の進行による高齢者人口や高齢ドライバーの増加などが要因と考えられます。

また、高齢ドライバーは身体機能や認知機能が低下している一方で、運転経験年数の長さから自身の運転技能を過信する場合がありますほか、帯広・十勝で生活する上では車が必要との考えから、運転に不安を抱えていても運転免許返納に踏み切れない場合もあると考えます。

このほか、50歳代の交通事故発生件数は、高齢者と20歳代に次いで多くなっているとともに、第9次計画から第10次計画にかけて、交通事故発生件数の減少率が全ての年齢層の中で最も低くなっています。これについては、運転技能に対する過信や、現役世代として運転する機会が多いことなどの要因により、交通事故発生件数が高止まりしているものと考えられます。

(3) 道路交通環境について

道路を通行する車両にとって見えづらい標識や路面標示が、ドライバーの誤認や焦りを引き起こし、それが交通事故につながってしまうことが懸念されます。

また、ドライバーが的確なタイミングで必要な情報を視認することができるように、標識や信号機等が隠れることのないよう、適切な道路交通環境を維持整備していくことが重要であると考えます。

2 今後の対応方向について

(1) 市民の交通安全意識の向上に向けた教育や啓発活動の推進

ドライバーの不注意による交通事故が最も多いことや、自転車利用者の交通ルール違反が多いことなどを背景として、市民一人ひとりが交通安全の大切さを理解するとともに、違反行為に対する罰則を逃れるためだけではなく、主体的な意識をもって交通ルールや交通マナーを遵守していくことが重要と考えます。

特に、今後も高齢者の増加が見込まれるなかで、高齢者の交通事故を減少させることが重要であることから、高齢者が交通事故の加害者にも被害者にもならないように、自分の運転技能や認知能力を把握できるよう、体験を伴う交通安全教育の機会の充実が必要であると考えます。

また、交通事故の減少率が低い50歳代をはじめとする現役世代は、車を運転する機会が多いことから、事業所などを通じた交通安全教育や啓発活動が必要であるほか、運転免許を取得していない方や、安全運転管理者を選任する義務のない事業所に勤めている方など、交通安全教育や啓発の機会が少ない市民への働きかけにより、交通安全意識を高めていく必要があります。

このほか、交通ルールを遵守した行動を習慣化するためには、幼少期から交通安全教育を続けていくことが重要であると考えます。

このため、市民の交通安全意識を向上させることを目的とし、各年齢層に対する交通安全教育や啓発活動を引き続き行っていく必要があります。

加えて、市民が主体となって地域の交通安全を推進することが交通事故の減少につながる考え、特に、交通弱者である子どもたちを守るための地域の見守り活動など、地域と連携した交通安全の取り組みを継続して進めていく必要があります。

(2) 高齢者の移動をサポートする取り組みと先端技術の普及・啓発

高齢者が安全に運転することが難しいと感じた場合に、安心して運転免許を返納することができるように、公共交通機関をはじめとした移動手段を充実させていくことが重要です。

また、運転免許を返納することにより、当該高齢者が受けられるサポートやサービスなどの充実や積極的な情報提供が必要です。

加えて、セーフティ・サポートカーなど、先端技術を搭載した車両のさらなる普及により、人為的なミスによる交通事故の減少につながることを期待できることから、こうしたサポート機能を持つ車両が普及していくことが望ましいと考えます。

(3) 安全に通行できる交通環境の整備

誰もが通行しやすい交通環境を整備することが、交通事故の未然防止につながると考えられることから、引き続き視認しやすい標識の設置や路面標示などを整備していく必要があります。

また、セーフティ・サポートカーなどの先端技術を搭載した車両には、標識や路面標示などを認識して機能する運転サポート技術があることから、先端技術が正常に機能するように、適切な道路環境を維持していく必要があります。

令和2年度 帯広市交通安全市民会議 委員名簿 (五十音順)

委員氏名	選出団体
浅野 慎哉	帯広警察署 交通第一課
猪子 荘太郎	帯広市PTA連合会
太田 義彦	帯広地区二輪車普及安全協会
奥野 一男	一般社団法人 十勝地区トラック協会
佐竹 信也	帯広市老人クラブ連合会
寺山 康浩	十勝地区バス協会
高島 寿	十勝総合振興局 環境生活課
武田 光史	帯広商工会議所
塚田 茂男	帯広市交通安全推進委員連絡協議会
塚本 俊二	十勝地区ハイヤー協会
平舘 善明 (会長)	国立大学法人 帯広畜産大学
船迫 郷子	公 募 委 員
前田 敏	公 募 委 員
村岡 克己	NPO 法人 北海道十勝バイコロジーをすすめる会
與坂 樹代二	帯広市交通安全協会
米森 洋子	帯広市社会福祉協議会 地域包括支援センター

令和2年度 帯広市交通安全市民会議 議論経過

開催日時	場所	内容
8月27日(木) 14:00～	ソネビル 6階講習会室	<ul style="list-style-type: none"> ・第11次帯広市交通安全計画の策定について ・昨今の交通安全を取り巻く現状について意見交換
10月1日(木) 15:00～	帯広市役所 10階 第5B会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・帯広市長より、第11次帯広市交通安全計画について諮問 ・答申内容について審議
10月9日(金) 14:00～	帯広市役所 10階 第5A会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第11次帯広市交通安全計画の策定に係る答申書案について審議